

point 1
食品の購入

寄り道しないで
まっすぐ帰ろう

消費期限などの
表示をチェック!

肉・魚はそれぞれ
分けて包む

できれば
保冷剤(氷)
などと一緒に

食中毒にご注意!

【食中毒を防ぐ6つのポイント】

point 2
家庭での保存

帰ったらすぐ冷蔵庫へ!

入れるのは7割程度に

肉・魚は汁が
もれないように
包んで保存

冷蔵庫は
10℃以下に
維持

冷凍庫は
-15℃以下に
維持

停電中に庫内温度に
影響を与える扉の
開閉は控えましょう

point 4
調理

加熱は十分に
(めやすは中心部分の
温度が75℃で1分以上)

作業前
に手を洗う

台所は
清潔に

電子レンジを使う
ときは均一に
加熱されるようにする

調理を途中で
止めたら
食品は冷蔵庫へ

point 5
食事

食事の前
に手を洗う

盛り付けは
清潔な器具、
食器を使う

長時間室温に
放置しない

point 6
残った食品

時間が経ち過ぎたり
ちょっとでも怪しいと思ったら、
思い切って捨てる

作業前
に手を洗う

手洗い後、
清潔な器具、
容器で保存

温めなおすときは
十分に加熱する
(めやすは75℃以上)

早く冷えるように
小分けする



point 3
下準備

冷凍食品の
解凍は
冷蔵庫で

タオルやふきんは
清潔なものに交換

ゴミはこまめに
捨てる

こまめに
手を洗う

肉・魚を
切ったら洗って
熱湯をかけておく

井戸水を使っていたら
水質に注意

肉・魚は生で食べる
ものから離す

野菜も
よく洗う

包丁などの器具、
ふきんは洗って消毒

※出典: 厚生労働省ホームページ

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/01_00008.html)

NPO 法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 53

TEL (0771)88-5014 / FAX (0771)88-5017

e-mail: info@cloverservice.or.jp

ホームページ http://www.cloverservice.or.jp

クローバー・デイサービスセンター

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 41-1

TEL & FAX (0771)88-0138

e-mail: day@cloverservice.or.jp



facebook QR



有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。

写真は、旧関東軍司令部。現中国共産党吉林省委員会(長春) 筆者撮影

山田洋次の『男はつらいよ』は第一作(一九六九)から第四十八作(一九九五)まで二十六年にわたって製作された。その間、『家族』(一九七〇)、『故郷』(一九七二)、『学校』(一九七三)などと併せて高度経済成長期から

バブルまでの社会状況が、風景としても、物語としても、きっちり描かれている。これらの作品群を見ることで、とりわけ若い人たちは、今に至るニッポンの混乱がどう展開してきたのかを知ることができる

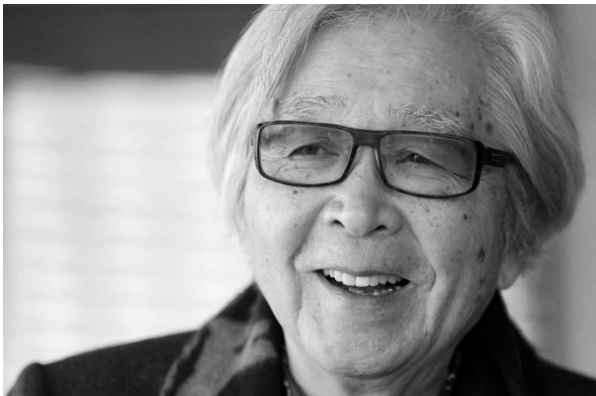
だろう。映画をテキストとして、社会や歴史を考えるのには、これほどふさわしい素材はないだろう。毎回、寅さんが惚れる女優陣に加えて、大物俳優が続々と登場するのもこのシリーズの楽しみである。時間を戦前からつなぐ意味で、山田監督をはじめある役者たちを、以下紹介する。

タイトルの〇数字はシリーズ第何作目かの意。ただし、渥美清死去(一九九六年八月四日)後の『寅次郎ハイビスカスの花特別篇』(一九九七)、『お帰る寅さん』(二〇一九)と山田洋次脚本のフジTVの同シリーズ(一九六八)二十六回は省く。加えて満州は正しくは

「満洲」だが、満州表記とする。

山田洋次(一九三二～)

大阪府豊能郡豊中町(現豊中市)の生まれ。二歳で満鉄技術者の父とともに一家で満州へ渡った。一九四六年三月までの十三年間、奉天(現瀋陽)、ハルビン、新京(現長春)、大連と移り住む。ただし、一九四一年から三年間は東京に暮らす。



山田洋次監督(1931～)

敗戦時、ソ連軍が侵攻、八路軍(中国共産党軍)に住宅も接収され、命からがら引き揚げる。山口県宇部の親戚宅に身を寄せる。小学五年のとき、ジフテリアにかかる。さすがの大病に、父に「何か欲しいものはないか」ときかれ、『落語全集』(講談社刊 全三巻 2400頁)を買ってもらう。

山田洋次の喜劇は落語色が強いが、『運が良けりゃ』(一九六六)は全編が落語そのものである。翌年には柳家小さんのために落語第一作『真二つ』を書いている。今でも同『頓馬の使者』と併せてCD(キングレコード)で聞ける。



リリー役の浅丘ルリ子、右は寅さん=渥美清(1928~1996)

なお、敗戦の前後に大連でほぼ死にかけていたのが、慰問に行つて取り残された志ん生と圓生である。これは井上ひさしがこまつ座の芝居にしている。

⑪『寅次郎忘れな草』(一九七三)、⑮『寅次郎相合傘』(一九七五)、⑳『寅次郎ハイビスカスの花』(一九八〇)、『寅次郎紅の花』(一九九五)の四作でドサ回りの歌手リリーを演じている。

一九四〇

年、新京の生まれ。父は満州国経済部大臣秘書官。父が軍属としてタイのバンコクに移り、三歳から同地に暮らす。敗戦の翌年引き揚げる。

十五歳のとき、井上梅次監督の『緑はるかに』(一九五五)でデビュー。同年の川島雄三監督の『銀座二十四帖』は見たが、銀座の花売り娘役がかわいい。これが故あってドサ回りのリリーに至るわけである。

井上梅次(一九三三~二〇一〇)は、一九六三年から五年間、香港のショーブラザーズに出向していて十五本ほど監督している。石原裕次郎をスターにし、浅丘ルリ子を発掘(命名も)した職人監督である。月丘夢路の夫で、都内の喫茶店チエーン(名前は失念)の経営でも成功している。

松竹の『人間標的』(一九七二)の現場を見学したことがあるが、その年に香港でも二本、日本で三本を撮っている。京都の下京区堺



笠智衆(1904~1992)、寅さん映画では柴又帝釈天の「御前様」役

町の生まれ。学徒出陣の関東軍経理学校を経て、戦後、慶応に入った。
笠智衆(一九〇四~一九九三)
 元憲兵大尉・甘粕正彦が満州映画協会(満映)の理事長に就任したのが、発足二年後の一九三九年。その翌年、松竹との連携第一回作品『黎明曙光』(山内英三監督)で笠智衆は主役を演じた。満州での匪賊討伐作戦の中で殉死した清水裕吉警察官の役。この映画は笠智衆の作品歴からも、も

れ落ちていて、作品、監督ともによくわからない。笠智衆は熊本県玉名郡の真宗本願寺派来照寺に生れている。本名である。どの映画に出ても熊本弁丸出し。京都市中京区生まれの田中春男が京都弁で押し通したのと並んで、すこぶる好ましい。フランスのジャーナリストが『男はつらいよ』の撮影現場に取材に来た。軽い娯楽映画との気持ちだったらしいが、小津安二郎作品の笠智衆が現れたのでたちまち緊張、態度を改めたという。ここ数年、フランスでは『男はつらいよ』の研究書が出版されたり、特集上映が催されたりしている。

〈この項つづく〉

職員紹介



淵上 妙子(ふちうえ たえこ)

3月からデイサービスで介護員として勤務しています。14年ぶりに仕事をするので、来る前は少し不安と緊張がありました。デイの皆さんがよくしてくださるので、とても楽しい時間を過ごさせてもらっています。

今の目標はデイに来られた利用者さんが笑顔で「デイに来てよかった」と思ってもらうことです。これからよろしくをお願いします。

鶏ささ身と胡瓜のピリ辛炒め <レシピ>

【材料】(2人分)

鶏ささ身	…	3本
胡瓜	…	2本
料理酒	…	大さじ1
塩胡椒	…	少々
片栗粉	…	大さじ1
◆にんにく	…	1片
◆豆板醤	…	大さじ1/2
◆砂糖	…	小さじ1
◆濃口醤油	…	大さじ1
ゴマ油	…	大さじ1

【手順】

- ① ささ身を一口大に切り、料理酒、塩胡椒、片栗粉でもみこんでおく。
- ② 胡瓜は5cm程度の乱切りにする。
- ③ にんにくをすりおろし、豆板醤、砂糖、濃口醤油で合わせ調味料を作る。
※豆板醤がない場合は鷹の爪(輪切り)で代用
- ④ フライパンにゴマ油をひいて、ささ身を火が通るまで炒める。
- ⑤ 胡瓜を加え、軽く炒めた後、③の合わせ調味料を加え、さっと炒め和える。



<賛助会員>

(有)あさひ堂
(株)一谷住宅
イン・ザ・ルーム亀岡店
上段税理士事務所
(株)高木設備
たにやま鍼灸接骨院
田端輪業
(有)土佐寿司
(有)永田損害保険事務所
(有)西村テレビ
三木歯科医院
みづほ電工
理容ちどり

(五十音順)

編集後記

へびや、ミミズのように足のない生き物(魚類を除く)が苦手です。ただムカデのように足がありすぎるのも苦手です。▼昨年(2022年)のことです。襟足に違和感がして、後ろ手に髪をかき上げ、振り返ると、肩の上に半身を起したムカデがいました。思わず「ムカデや!」と叫び、慌てて服を脱ぎ捨てたのですが、間近でみたあの姿は気持ち悪かったです。▼そんなムカデですが、戦国時代の武将達は、強さの象徴として考えていたそうです。「後退せず、ただ前進するのみ」という生物としての習性がある。武田信玄が旗指物

(はたさしもの)モチーフに使用していました▼伊達政宗の重臣である伊達成実(しげざね)が使用していたとされる「鉄一枚張南蛮鎖兜」は、前立として金箔押の巨大なムカデをあしらった大胆なデザインで、戦場でもその姿は異彩を放っていたのではないのでしょうか▼兜のモチーフとして、意外にも人気が高かったのがウサギでした。現代の感覚からすると、ふわふわして可愛い小動物というイメージのウサギですが動きが俊敏で繁殖力が強いことから戦国時代には縁起の良い動物として武将達に好まれたようです。
<編集子>